

市民企画会議主催講座

「<sup>おうばく</sup>仙<sup>かんしんいん</sup>台黄<sup>宗</sup>榮宗と<sup>観心院</sup>さん」(全2回)

開催日 1. 10月 8日(木)

2. 10月 15日(木)

13:30~15:00



[観心院像]

地域のみんが集い・学び・交流する

若林市民センター

●お問い合わせ

TEL 022-282-4541

■受付時間 9:00~21:00

●休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始

指定管理者(仙台市教育委員会指定)

公益財団法人仙台ひと・まち交流財団



「わかれき」活動の様子

仙台市において、現存している「黄檗宗」のお寺は、三ヶ寺あります。そのひとつが若林市民センターエリアにある「松月山桃源院」です。「仙台の今・むかし」として桃源院の成り立ち等について地域学習を重ねている中、「黄檗文化」についての興味が高まり、公開講座として開催することとしました。

講師:福島美術館 学芸員 尾暮 まゆみ氏

企画:市民企画会(若歴会)

〈受講者数:39人〉



講師の語りは絶妙!

1. 「観心院さん」は、伊達家7代藩主重村公夫人

仙台藩が飢饉に見舞われた時代、救済事業や飢饉で亡くなった多くの民衆の供養のため、私財をもって救済にあたりるとともに、広瀬橋の傍らに黄檗のお寺を建てられました。それが「桃源院」です。「広瀬川灯笼流し」は黄檗宗の重要な法要のひとつ、「川施餓鬼」として始まったものだそうです。

石巻の川開き花火大会も同じ流れとのことです。

2. 〈黄檗文化は異国へのあこがれ〉

黄檗ニ和名はキハダ、樹皮は染料や薬用

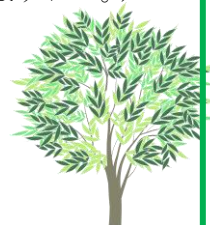
鎖国の江戸時代、中国の高僧・隠元禪師とともに渡来した一行が伝え広まったのが「黄檗文化」だそうです。

その範囲は広く、建築・土木技術・医薬・書・絵画・彫刻・篆刻・料理・木魚・煎茶などの生活文化であるとのことです。

\* 例えば

- ・日常茶飯事は煎茶
- ・郷土料理「おくずかけ」は普茶料理
- ・みんなで食べる普茶料理はちゃぶ台(茶普台)で。(日本はお膳であった)
- ・インゲン豆の名称は「隠元禪師」から
- ・お寺の「木魚」の発生  
(茂ヶ崎にある大年寺の本堂には大きな「魚」の形の叩き板がありますが…。)
- ・原稿用紙(20字×10行×2)
- ・音楽のような読経「梵唄(ボンハイ)」
- ・新田開発や干拓事業への関わり
- ・筍の「孟宗竹」

※ 日本に伝えられた当時は「臨済正宗黄檗派」としていましたが、明治9年に独立し、黄檗宗となったそうです。



熱心に聞き入る皆さん



京都宇治黄檗山萬福寺「布袋さん」弥勒さんの化身とも…

～終わりに～

黄檗文化は、身近なものであるという事を知りました。仙台郷土料理とされている「おくずかけ」は、汁まであますことなくいただける料理としても知られています。隠元豆の語源は隠元禪師であることを知っていた方も、黄檗文化とのつながりは知らないかもしれません。また、「鎖国」の時代に、異国文化と触れる窓口でもあったとのことです。隠元禪師の肖像画は正面から描かれ色合いが美しいものですが、これも黄檗宗の特徴だとのことです。

終了後、講師への質問も数多く出され、充実した講座となりました。

～アンケートから～

- ・黄檗についてほとんど知らなかったのが興味深く、勉強になりました。
- ・講師の絶妙な語り口が大変良かった。
- ・黄檗の食文化に興味を持ちました。
- ・大年寺は散歩コースでよく行くので興味がありました。
- ・「観心院」についてのお話しはドキドキしました。
- ・黄檗の読み方も知らずにいました。現在の暮らしとかかわりが深いことを知りました。
- ・歴史とは前世に生きた人々との継承だと改めて感じました。